

文献には、信頼性に乏しいものがあります。すべてが史実とは限りません。随時追加修正中 文責 石田明夫

西 暦	年号	月日	内 容	文献	領主	支配
1590.08	天正18年	8月9日	天寧寺住祥山が、達摩と寒山拾得の図を秀吉に出すも受け取らず、銀30枚を下賜する。8月9日か	旧事雑考	氏郷	秀吉
1590.0809	天正18年	8月9日	豊臣秀吉が黒川に入り、興徳寺を評定所とし、黒川を氏郷へ与える。	浅野家文書	氏郷	秀吉
1590.0810	天正18年	8月10日	秀吉が黒川の興徳寺に入り、細川越中が会津守護を堅く固辞したので、再び氏郷へ会津守護を命じ、氏郷が受ける。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1590.0810	天正18年	8月10日	秀吉が、奥羽の検地を命じる。	浅野家文書	氏郷	秀吉
1590.0812	天正18年	8月12日	秀吉は、浅野長政に対し、会津は氏郷、白川近辺は宇喜多秀家に検地を命じる。最上と政宗には妻子を京都へ差し出すよう命じる。長政へ検地の細かな指示を出す。	浅野家文書	氏郷	秀吉
1590.0814	天正18年	8月14日	秀吉、会津を発し帰る、高原路では駕籠を下りる。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1590.0815	天正18年	8月15日	宿所より某氏に文書を発する。	国分文書	氏郷	秀吉
1590.0826	天正18年	8月26日	氏郷、蒲生源左衛門へ、安子ヶ島に逗留。百姓が騒がないように依頼。	堀氏文書	氏郷	秀吉
1590.0901	天正18年	9月1日	豊臣秀次、氏郷が柳津円蔵寺に寺領二百石を寄進する。	円蔵寺文書	氏郷	秀吉
1590.0905	天正18年	9月5日	氏郷、黒川城に入る。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1590.10	天正18年	10月下旬	大崎で反乱、木村伊勢守の佐治城を囲む。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1590.1028	天正18年	10月28日	28日、29日、大雨雪となる。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1590.1101	天正18年	11月1日	氏郷黒川を発し、大崎へ向う。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1591.0101	天正19年	1月1日	氏郷、木村伊勢守を伴い名生城を出て会津に赴く。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1591.0111	天正19年	1月11日	氏郷、会津に還る。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1591.0127	天正19年	1月27日	氏郷、会津を発し、京へ入る。政宗の下心を報告する。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1591.06	天正19年	6月初め	政宗、大崎から岩出山城へ移る。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1591.0617	天正19年	6月17日	氏郷、会津に還る。九戸の討伐を命じられる。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1591.0713	天正19年	7月13日	氏郷、軍に命じる。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1591.0727	天正19年	7月27日	氏郷、兵23,000で会津を発する。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1591.0901	天正19年	9月1日	九戸の砦を攻める。九戸の福岡城を攻め落す。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1592.0601	天正20年	6月1日	6月1日、廓内の町割を定め、正月十日年始の市を大町、8日を馬場町、7日を本郷町、3日を三日町、9日を桂林寺町、10日を大町、6日を六日町とし、廓内の大通りを東西3里、南北二里の十字街とし、廓の四方は濠を深くし、壘を高くし、要所に城戸を建て、警護の武士を置き、町人と諸職人侍屋敷を混同せず、町外に遊女屋を置く	日野町志	氏郷	秀吉
1592	文禄元年		文禄の役、氏郷、名護屋へ赴く。役は文禄5年まで続く。		氏郷	秀吉
1592.0601	文禄元年	6月1日	蒲生氏郷、6月1日、黒川中の小路を改修。家を並び替え、黒川を若松と名付ける。四方に壘を高くし、堀を深く掘り回して、城戸を建てた。正月十日を、年初めの市祭りとし大町から始め、一・八を馬場町、二・七は本郷町、三・々は三日町、四・九は桂林寺町、五・十は大町、六・々は六日町で交易するよう定める。	四家合考	氏郷	秀吉
1592.0601	文禄元年	6月1日	大町、馬場町、甲賀町（日野から来る）、六日町、三日町、華表町、槻木町（大槻氏が居ることによる）、堅三日町、行人町（昔、行寿法師という行人が居た）、中六日町、本郷町（本郷村より移す）、寺町、南横町、御屋敷町（氏郷の母の屋敷が構えられたため）、愛宕町、阿弥陀町、台町、浄光寺町、名子屋町、野伏町（本郷村の弓足軽を移す）、博労町、五之町、堀江町、桂林寺町、老町、針屋町、北小路町、七日町、原町、大和町（葦名氏家臣佐瀬大和の屋敷）、融通寺町、西名子屋町、赤井町（葦名氏赤井因幡の屋敷）、中町、善叶町、南町、横町、下横町、堅町、河原町、材木町、材木町、天寧寺がある。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1592	文禄元年		小判金、初めて用いられる。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1593.0615	文禄2年	6月15日	若松城殿守（天守）が建つ。肥前名護屋の天守を模倣する。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1593.0909	文禄2年	9月9日	大風。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1593	文禄2年		氏郷、城の屋根瓦を造らせるため、播磨国（兵庫県）から石川久左衛門他3人の瓦工を呼び寄せ小田村（会津若松市花見ヶ丘）で黒瓦を焼かせる。	新編風土記	氏郷	秀吉
1593.1120	文禄2年	11月20日	11月20日、蒲生氏郷、肥前名護屋から会津に還る。	旧事雑考	氏郷	秀吉
1593.1121	文禄2年	11月21日	11月21日、蒲生氏郷が、町野長門守に楽焼の常慶（2代目）が来るので、伝馬をするよう指示する。	楽家文書	氏郷	秀吉
1594.07	文禄3年	7月吉日	7月、領内の猪苗代・津川・伊南・伊北の高目録が成る。	内閣文書	氏郷	秀吉
1594.0610	文禄3年	6月10日	6月10日、蒲生氏郷が近江商人の蒲生忠兵衛に、秀吉以下を屋敷に迎えるので、7月中に準備し、8月5日以前に準備を完了するように指示する。	蒲生氏文書	氏郷	秀吉

1594.0814	文禄3年	8月14日	8月14日、会津領内稲川・河沼・門田・大沼・山郡の高目録が成る。	内閣文書	氏郷	秀吉
1594.1025	文禄3年	10月25日	10月25日、蒲生氏郷が、秀吉以下全国の大名800人を京の屋敷に招き、大宴会をする。	氏郷記	氏郷	秀吉
1594.1113	文禄3年	11月13日	11月13日、千少庵の召出し状を家康と氏郷が書く。	裏千家文書	氏郷	秀吉
1595.0207	文禄4年	2月7日	2月7日、蒲生氏郷、京都の屋敷で死去。40歳。	蒲生家譜	氏郷	秀吉
1595.0209	文禄4年	2月9日	2月9日、氏郷の死去後に、13歳秀行が相続し、秀吉が諸大名に友好関係を命じる。	上杉家文書	秀行	秀吉
1595.0529	文禄4年	5月29日	5月29日、秀吉が、浅野長政、幸長父子に、(不明)、米沢、白川、田村、二本松、白石、津川以下会津領内七城以外の破城を命じる。	富岡文書	秀行	秀吉
1595.0721	文禄4年	7月21日	7月21日、蒲生秀行が浅野長政とともに会津に始めて入り。領内の仕置きを命じる。破城は念入りにし、各地の城や要害のよき所は、土居を造らせること。代官は私曲如在なき通誓紙を仕、自在に立ち入ることなど。	築田家文書	秀行	秀吉
1597	慶長2年		慶長の役。慶長3年、秀吉の死去で中止される。		秀行	秀吉
1597	慶長2年		この年、若松城下に時宗の長泉寺を東明寺の文峯が建てる。権宗が仮に住む。慶長6年文峯米沢に移る。	新編風土記	秀行	秀吉
1598.0107	慶長3年	1月7日	1月7日、大雪が降り、往来の路が途絶える。	富田家年譜	秀行	秀吉
1598.0110	慶長3年	1月10日	1月10日、秀吉より景勝は、会津移封を申し渡され、越後に越前北の庄の堀秀治が入る。2月中旬には家臣の配置が決まり、3月末までにほぼ移動が完了する。秀吉の朱印状には、家中の者から中間に至る奉公人1人残らず召し連れ、移らないものは成敗するよう命じられる。	上杉文書	景勝	秀吉
1598.0116	慶長3年	1月16日	正月16日、秀行公が宇都宮18万石で遷される。	異本長帳	景勝	秀吉
1598.0116	慶長3年	1月16日	1月16日、国替えの知らせが蒲生秀行へもたらされる。秀行は宇都宮へ移封となる。	塔寺長帳	景勝	秀吉
1598.02	慶長3年	2月	2月、景勝は、重臣を支城に配置する。米沢に直江兼続(6万石)、南山(田島)に大國実頼(21,000石)、白石に甘糟景継(2万石)、中山(上市市中山)に横田旨俊(3000石)を置く。	御年賦	景勝	秀吉
1598	慶長3年		景勝は、米沢6万石又は3万石で直江兼続。石那田に1万石泉沢秀久、会津城詰で中津川彦七置く。金山1万石色部光長。鮎貝1万石中条三盛。中山3千石横田旨俊。高畑5千石春日元忠。小国3200石松本高久、慶長3年大浦城へ移り跡に三瀧左近大夫。酒田5100志駄義秀。藤嶋5千石木戸載秀。福嶋1万石水原親憲、後に大森城の本庄繁長。南山2万1千石大國実頼。梁川2万石須田大炊助。浅香1万石安田能元、会津定詰で栗田監物を置く。宮代6千石岩井信能。保原5500石大石播磨元。白石2万甘糟備後。津川1万1千石藤田信吉(5年3月徳川に出奔)、後に清水采女。伊奈1万石清野長載。白川(白河)6千石芋川正親、二の郭に3千石平林正恒。長沼7千石嶋津忠直。二本松東城4千7百石下条正親、西城に2千石秋山定綱。塩松東城6500石山浦景国、西城に6700石市川房綱。大森8500石栗田国時(5年3月藤田と二本松温泉に入ると暇を願い出奔、平林に福島伏拝で討たれる)。猪苗代5500石水原親憲。森山2千石竹俣利綱。伏見留守居で5500石千坂景親。	紹襲録	景勝	秀吉
1598.0206	慶長3年	2月6日	2月6日、秀行公宇都宮へ移る。	異本長帳	景勝	秀吉
1598.02	慶長3年	2月初め	蒲生秀行、宇都宮に到着。	旧事雑考	景勝	秀吉
1598.0210	慶長3年	2月10日	2月10日、石田治部少輔(三成)、大谷刑部少輔、若松に着く。	異本長帳	景勝	秀吉
1598.0216	慶長3年	2月16日	2月16日、景勝、兼続は、松原村(福島県耶麻郡北塩原村)をはじめ領内にお触れを出し、蒲生家家臣の転出には便宜を図るが、領内の耕作者転出と、農民の召し連れ、奉公人以外の連れ出しは厳禁とする。	旧事雑考	景勝	秀吉
1598.0216	慶長3年	2月16日	2月16日、直江兼続が若松城を請取りに来る。	異本長帳	景勝	秀吉
1598.0221	慶長3年	2月21日	2月21日、蒲生秀行が命じていた領内の高成帳(石高)が出来る。	内閣文書	景勝	秀吉
1598.0223	慶長3年	2月23日	2月23日、石田治部少輔、大谷刑部少輔、城を受取る。渡し人は蒲生源左衛門、管又右衛門、原田内記。	異本長帳	景勝	秀吉
1598.0224	慶長3年	2月24日	2月24日、景勝は、若松城に入る。奉行は岩井備中、安田上総、大石播磨の三人。	旧事雑考	景勝	秀吉
1598.0303	慶長3年	3月3日	3月3日、景勝、伏見城を出発する。	旧事雑考	景勝	秀吉
1598.0303	慶長3年	3月3日	3月3日、伏見にいた景勝は、秀吉から暇を賜る。	上杉年譜	景勝	秀吉
1598.0304	慶長3年	3月4日	3月4日、三成と景勝は、旧米沢城主蒲生郷安の転出にあたり、那須の芦野(栃木県大田原市)まで馬と人足を出し、飯と餌は郷安から受取ることにする。	上杉家記	景勝	秀吉
1598.0306	慶長3年	3月6日	3月6日、景勝は、伏見を出発する。	上杉年譜	景勝	秀吉
1598.0306	慶長3年	3月6日	3月6日、景勝は、若松を発し、上京する。	異本長帳	景勝	秀吉
1598.0307	慶長3年	3月7日	3月7日、石田三成、会津へ下向。			
1598.0311	慶長3年	3月11日	3月11日、兼続、米沢城下の町人の納める地子と諸役銭、山手銭を定め、3年間の免除を命じる。	石田名助記録	景勝	秀吉

1598.0324	慶長3年	3月24日	3月中には、石田三成が越後から入り、国を受取り、24日には、上杉景勝を従えて国に入る。直江山城は仕置きをし、三奉行に岩井備中、安田上総、大石播磨、四郡は山(耶麻)郡は満願寺、河沼郡は松木たくみ、大沼郡は山田喜右衛門、稲川(河沼)郡は津川宇津江を仕置きとし、里稲川(河沼郡の会津盆地内)の代官は山口対馬、山稲川(山間部の河沼郡)は野津伊勢に申渡す。	塔寺長帳	景勝	秀吉
1598.0324	慶長3年	3月24日	3月24日、景勝、越後經由で石田三成とともに会津に入る。兼続は米沢に入る。	旧事雑考	景勝	秀吉
1598.0329	慶長3年	3月29日	3月29日、景勝は、兼続を介して会津に進入した政宗に対する軍功を賞し、諸将に感状を与える。	上杉年譜	景勝	秀吉
1598.04	慶長3年	4月	4月、景勝、領内の山道と橋梁の改修を命じる。	上杉年譜	景勝	秀吉
1598.0424	慶長3年	4月24日	4月24日、景勝は、前田利家に書を送り、秀吉にしばらく会津在国の取り成しを依頼する。	直江兼続伝	景勝	秀吉
1598.0620	慶長3年	6月20日	6月20日、上杉家臣の大盛勘介が、小田付(喜多方市の市街地)の町割が完成し、市祭が開催される。(喜多方市街地の始まり)	新編会津風土記	景勝	秀吉
1598.0706	慶長3年	7月6日	7月6日、中通り(福島県)の道路、橋梁の整備を代官に命じる。同じ頃、中通りの諸城の普請作事を命じる。	上杉年譜	景勝	秀吉
1598.0723	慶長3年	7月23日	7月23日、景勝は、伏見留守役の千坂対馬に、秀吉の病状が問う書状を送り、速やかに上洛すべきか問う。	直江兼続伝	景勝	秀吉
1598.0802	慶長3年	8月2日	8月2日、景勝は、越後にある謙信の遺骸を会津に移すことを諸寺に伝え、8月中旬に会津へ到着した。	上杉年譜	景勝	秀吉
1598.0805	慶長3年	8月5日	8月5日、秀吉は、前田利家、毛利輝元、宇喜多秀家、上杉景勝に「秀よりの事たのみ申候」と遺書を残す。	覚上公御書	景勝	秀吉
1598.0808	慶長3年	8月8日	8月8日、豊臣家五奉行が五大老に誓紙を提出。	覚上公御書	景勝	秀吉
1598.0809	慶長3年	8月9日	8月9日、城郷・籠島・宇津江(稲川代官)ら3人の代官が大沼郡内の芋小屋村(河沼郡柳津町芋小屋)の肝煎りに、漆と蠟を上納するよう命じる。	新編会津風土記	景勝	秀吉
1598.0819	慶長3年	8月19日	8月19日、兼続は、安江五郎左衛門、石栗将監に命じ、二本松領を発給し、安田能元に1万、下条忠親に4000石、千坂余市2000石、下条与五郎に1000石、新津内記助に2000石、小山某に500石、石栗将監に500石、深尾市右衛門に1000石、秋山定綱に1000石、秋山小五郎に500石に配分する。	上杉家記	景勝	秀吉
1598.0819	慶長3年	8月19日	※秀吉死去。	戦国全史	景勝	豊臣
1598.0825	慶長3年	8月25日	8月25日、家康、利家、秀吉の死を隠して朝鮮在陣の諸将に帰陣を命じる。	戦国全史	景勝	豊臣
1598.08	慶長3年	8月	8月、景勝は奉行の岩井備中守、郡代の山岸中務少輔、城代の広居又五郎らを春日山に遣わし、謙信の遺骸を、大乘寺、妙観院、宝徳寺と手明100人で若松城に移し、城内南西隅に安置する。	御年賦	景勝	豊臣
1589.0822	慶長3年	8月22日	8月22日、耶麻郡の代官満願寺仙右衛門と篠井弥七郎は岡田、丸山、西潟、中野、上松に200石、西海枝に100石給付する。	歴代古案	景勝	豊臣
1598.0917	慶長3年	9月17日	9月17日、景勝は会津を出発する。	覚上公御書	景勝	豊臣
1598.0917	慶長3年	9月17日	9月17日、景勝は若松城を出発し、10月7日、伏見邸に到着、兼続も同行する。	上杉家記	景勝	豊臣
1598.0920	慶長3年	9月20日	9月20日、徳川秀忠から会津に入った上杉景勝へ、国替えの祝い状が送られる。太刀、馬、呉服、馬、虎皮が送られる。	上杉文書	景勝	豊臣
1598.0927	慶長3年	9月27日	9月27日、京の兼続は、国元の山田喜右衛門(大沼郡代官)に長井(米沢)の諸士が残りに米沢に移ったと記されている。	上杉家記	景勝	豊臣
1598.1002	慶長3年	10月2日	10月2日、景勝伏見に到着。	覚上公御書	景勝	豊臣
1598.1026	慶長3年	10月26日	10月26日、耶麻郡の代官、満願寺が刀匠兼貞(歴代刀匠で和泉守兼定)に耶麻郡の宮前村(喜多方市宮前)の地200石を給付する。	新編会津風土記	景勝	豊臣
1598.10	慶長3年	10月	10月、若松城の在番制度を制定。兼続と南山の大国実頼、白石の甘糟景継、佐渡の須賀と黒金、酒田の志田を除く者が1日1夜づつ交替した。	直江支配分限長	景勝	豊臣
1598.1103	慶長3年	11月3日	11月3日、景勝は、五大老の一人として朝鮮在陣中の島津義弘、家久に明軍撃退を賞するとともに帰朝を命じる。	島津家文書	景勝	豊臣
1598.12	慶長3年	12月	12月下旬、諸将へ秀吉の遺品が分与され、景勝は御掛物を与えられる。	上杉年譜	景勝	豊臣
1598.	慶長3年		この年、上杉景勝母の祠堂として若松石塚観音の西北、俊芳山東昌寺を建てる。曹洞宗量外和尚が開山。若松に長福禅寺を曹洞宗守応が建てる。	旧事雑考	景勝	豊臣
1598.	慶長3年		このころ上田の弘長寺が僧其阿により若松城西に建てられ、城南に常慶寺が慶岩により越後から移され、林昌寺が慶岩の弟子安作により建てられる。	新編風土記	景勝	豊臣
1598.	慶長3年		この年、会津中に、布役、蠟役、山役、塩役、紙役、銀定める。	異本長帳	景勝	豊臣
1598.	慶長3年		この年、会津移封に伴い、多くの寺院と修験が越後と信州から会津や置賜へ移る。	勤書	景勝	豊臣
1598.	慶長3年		この年、安達郡(福島県郡山市)の横川新道中山口を肝煎小池近右衛門通庫が建てる。	富田家年譜	景勝	秀吉
1599.0101	慶長4年	1月1日	1月1日、景勝、新年を伏見で迎える。	上杉年賦	景勝	豊臣
1599.0110	慶長4年	1月10日	1月10日、豊臣秀頼、伏見城から大坂城へ移る。	戦国全史	景勝	豊臣

1599.0119	慶長4年	1月19日	1月19日、景勝、利家、秀家、輝元は、秀吉の遺命に背き、伊達政宗と福島正則と婚約を進める家康を叱責する。	戦国全史	景勝	豊臣
1599.0120	慶長4年	1月20日	1月20日、家康の七男松平忠輝と政宗の長女五郎八姫の婚約が調う。	治家記録	景勝	豊臣
1599.0124	慶長4年	1月24日	1月24日、景勝、前田利家、毛利輝元らと家康を責める。	覚上公御書	景勝	豊臣
1599.0202	慶長4年	2月2日	2月2日、景勝は、諸境に異事ないことを知らせてきた安田能元、岩井昌能、大石元綱、に返事を出す。	覚上公御書	景勝	豊臣
1599.0205	慶長4年	2月5日	2月5日、会津中納言景勝、前田利家、宇喜多秀家、毛利輝元、前田玄以、浅野長政、増田長盛、石田三成、長束正家とともに、家康に起請文を提出する。	家康文書研究	景勝	豊臣
1599.0205	慶長4年	2月5日	2月5日、家康が、景勝ら九人に起請文を送る。	家康文書研究	景勝	豊臣
1599.0224	慶長4年	2月24日	2月24日、景勝は、岩井昌能、安田能元、大石元綱、山田喜衛門、松木秀定に対し、左近司伝兵衛久美の鳥羽彦八郎ほか7人に、50貫文宛知行を与えるよう命じる。	覚上公御書	景勝	豊臣
1599.03	慶長4年	3月	3月、兼続は、南化玄興より助字の解釈などを記した文鑑を送られる。	上杉家文書	景勝	豊臣
1599.0303	慶長4年	3月3日	閏3月3日、前田利家が死去する。翌日、三成は、加藤清正、黒田長政、福島正則らから襲われそうになり、佐竹義宣が救出する。上杉景勝も義宣とともに救出するはずだったが、仮病を使い救出しなかった。その後、三成は家康を頼り、家康は三成を佐和山城に退かせる。	戦国全史	景勝	豊臣
1599.0311	慶長4年	3月11日	3月11日、三成らは家康が利家の病気見舞いに合わせ襲撃を計画するが失敗する。	言経卿記	景勝	豊臣
1599.0317	慶長4年	3月17日	3月17日、耶麻郡代官の満願寺が、別府村(喜多方市塩川町別府)120石の地を神田新二郎と神田右馬允へ肝煎を命じる。	新編会津風土記	景勝	豊臣
1599.0407	慶長4年	4月7日	4月7日、直江兼続、病死の長沼城(福島県須賀川市長沼)主島津義忠の跡を岩井昌能の二男勢三に与え、義忠の息女を娶ることを命じる。	覚上公御書	景勝	豊臣
1599.0606	慶長4年	6月6日	6月6日、直江兼続、塔寺八幡宮(福島県会津坂下町)の回廊の上葺を勧める。	塔寺長帳	景勝	豊臣
1599.0723	慶長4年	7月23日	7月23日、佐竹義宣、景勝は、伏見留守役の千坂対馬に、秀吉の病状が問う書状を送り、速やかに上洛すべきか問う。			
1599.0728	慶長4年	7月28日	7月28日、景勝、大坂城に行き秀頼と家康に辞し、8月3日、伏見を立つ。	直江兼続伝	景勝	豊臣
1599.0803	慶長4年	8月3日	8月3日、景勝、家康に願い、会津に帰る。	東国太平記	景勝	豊臣
1599.0822	慶長4年	8月22日	8月22日、景勝、会津の若松城へ着く。	直江兼続伝	景勝	豊臣
1599.08	慶長4年	8月	8月、兼続は、信州岩田村の町人、中沢善三郎に若松往来に対し、商売役銭を免除する	篠沢文書	景勝	豊臣
1599.0901	慶長4年	9月1日	9月1日兼続、大坂を発し、3日には、佐和山の三成を尋ねる。	東国太平記	景勝	豊臣
1599.0905	慶長4年	9月5日	9月5日、景勝、若松に帰る。	異本長帳	景勝	豊臣
1599.0907	慶長4年	9月7日	9月7日、佐竹義重は、太田福寿院に生前に死後の冥福を祈った逆修ため49の小堂を建てる。	義重家譜	景勝	豊臣
1599.0914	慶長4年	9月14日	9月14日、家康が、景勝に返書し、会津の無事の到着と自分が大坂入りして命令を発していることを知らせる。	上杉文書	景勝	豊臣
1599	慶長4年		曹洞宗常慶寺が、越後より移り慶岩により建てられる。景勝の命により、浄土宗加納山願成寺の22世良翁、願成就寺を城の北に建てる。	新編風土記	景勝	豊臣
1599.0923	慶長4年	9月23日	兼続、金子1376枚の内、800枚を蔵方に渡し、残り576枚を手元に置く。(1枚は10両で1両約4~8石)	上杉家記	景勝	豊臣
1599.0923	慶長4年	9月23日	9月23日、兼続は、池浦庄左衛門、山田喜衛門に越後より持ち越しの金1376枚余の目録を作成して渡す。	編年文書	景勝	豊臣
1599.1015	慶長4年	10月15日	10月15日、耶麻郡代の満願寺が棟梁の源左衛門に塚原村(喜多方市塚原)内の200石を与える、	志賀文書	景勝	豊臣
1599.1120	慶長4年	11月20日	11月20日、家康の命により戸沢氏(秋田県大仙市角館)が兼続の動静を報告する。	市史	景勝	豊臣
1600.0202	慶長5年	2月2日	2月2日、景勝、中通り(福島県)の諸城の普請を春から夏の間完成し、白河の普請に廻るよう安田氏、岩井氏、大石氏へ指示する。	上杉文書	景勝	豊臣
1600.0208	慶長5年	2月8日	2月8日、景勝、甘糟景継に白石城改修と政宗に注意するよう指示する。	上杉年譜	景勝	豊臣
1600.0210	慶長5年	2月10日	2月10日、景勝、兼続に命じ、新城(神指城)の築城を命じる。初めは河沼郡の北田城(河沼郡湯川村)の地にしようとした。	旧事雑考	景勝	豊臣
1600.0210	慶長5年	2月10日	2月10日、越後の堀秀治は、家康家臣の榊原康正に神指城の築城に合わせ、直江兼続が、武具を調達し、越後旧領で一揆を計画し、岩井備中を越後に送り込んだこと、年貢の半分を持って行ったことを報じる。	上杉家記	景勝	豊臣
1600.02	慶長5年	2月	2月、堀秀治の父、直正も秀治同様に会津の様子を家康に報告する。	上杉年譜	景勝	豊臣
1600.0214	慶長5年	2月14日	(慶長4年か5年に書かれた)2月14日、景勝、円蔵寺塔之坊(福島県河沼郡柳津町)に書を送り、宝前参籠と武運長久を懇祈し、巻数と五明紅燭を上方へ送る。	円蔵寺文書	景勝	豊臣
1600.02	慶長5年	2月	2月、藤田能登守信吉が妻子と家臣200人を連れて下野国那須に立ち退き、徳川勢に駆け込み仕える。	覚上公御書	景勝	豊臣

1600.02	慶長5年	2月	3月以前に、白川(白河)口へ泉、津川河内守へ人衆2万人で在番を命じる。	塔寺長帳	景勝	豊臣
1600	慶長5年	3月以前	この年の3月以前、兼統の「直江支配長井郡分限帳」に五十騎衆など直轄の旗本を「三州手」、横田氏や外池氏など浦生や葦名家臣を「先方衆」とし、前田慶次1000石、車丹波1000石らを「組外衆」として抱える。津川城の藤田能登信吉の名があり、後に神指の城へ移るとある。	直江支配帳	景勝	家康
1600.0301	慶長5年	3月1日	3月1日、この日から、13日に行われる謙信の23回忌法要にあたり、万部経の唱えが始まる。	旧事雑考	景勝	豊臣
1600.0311	慶長5年	3月11日	3月11日、津川城主(1万1千石)の藤田信吉と大森城主(8,500石)の栗田刑部が家康方に走る。藤田は妻子を連れ200人出奔。栗田は、二本松の岳温泉入口で一族80人が討たれる。	藩翰譜	景勝	豊臣
1600.0313	慶長5年	3月13日	3月13日、上杉謙信の23回忌法要を若松城で執り行われる。	御年賦	景勝	豊臣
1600.03	慶長5年	3月	3月、若松の神指村その辺13村を引き倒し、会津はもとより、他国の者、人足を呼び寄せ御普請を始める。本丸、二ノ丸の堀、20間とし、その上、町割も定める。	塔寺長帳	景勝	豊臣
1600.0318	慶長5年	3月18日	3月18日、神指城本丸を築き始める。諸士役の割普請による。	旧事雑考	景勝	豊臣
1600.0318	慶長5年	3月18日	3月18日、佐竹義宣から、車猛虎ら300人が築城(神指城)の支援に来る。	佐竹文書	景勝	豊臣
1600.0320	慶長5年	3月20日	3月20日、湖南(郡山市湖南町)の赤津城の再興修理を吉田源左衛門と田川与惣右衛門へ命ずる。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0321	慶長5年	3月21日	3月21日、上方の徳川秀忠より書状が届き、景勝が領内の普請は尤もなことで述べ、上方は平穏だとし、城の築城は承諾する。	上杉文書	景勝	豊臣
1600.0323	慶長5年	3月23日	3月23日、津川の藤田信吉が家康方に走り江戸に着く。	三公外史	景勝	豊臣
1600.0325	慶長5年	3月25日	3月25日、景勝、伊達郡梁川城主の須田大炊介長義から送られた蠟燭百挺と白鳥の返事に油断なきように指示する。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0329	慶長5年	3月29日	3月29日、兼統は、築地修理へ、福島政宗による不慮の攻撃を撃退したことと、ますます防御を固めるよう指示。	直江兼統書状	景勝	豊臣
1600.0401	慶長5年	4月1日	4月1日、相国寺塔頭豊光寺の僧西笑承兌が、兼統へ、景勝に対する糧やかでない噂が京都で広まり、家康も疑っている。香指原築城、越後川口道の橋架けや近国の堀氏の件、武具の収集などを問い質している。	豊光寺承兌書状	景勝	豊臣
1600.0413	慶長5年	4月13日	4月13日、家康より僧承兌が4月1日付けの書状で、兼統あてに、家康の使者伊奈昭綱と増田長盛の使者川村長門が13日に若松に着き、弁明のために上洛するよう伝える。	上杉文書	景勝	豊臣
1600.0414	慶長5年	4月14日	4月14日、兼統が家康の意向を受けた豊光寺の僧西笑承の返書「直江状」を書く。	直江状	景勝	豊臣
1600.0503	慶長5年	5月3日	5月3日、家康、兼統の返書から諸大名に会津出征を命ずる。	譜牒余録	景勝	豊臣
1600.0503	慶長5年	5月3日	5月3日、家康は、伊王野資信からの報告により、国境(下野)の口を堅く守るよう伊王野下総へ命じ、自らも会津へ出馬することを通知する。	譜牒余録	景勝	豊臣
1600.0507	慶長5年	5月7日	5月7日、家康、堀尾・中村らから出征中止を要請される。	上杉年賦	景勝	豊臣
1600.0510	慶長5年	5月10日	5月10日、会津、仙道、佐渡、荘内、長井の入夫12万人で神指城築く、惣奉行は直江山城、小奉行は小国但馬、甘糟備後、山田喜右衛門、清水権右衛門、割奉行は島倉孫左衛門という。	旧事雑考	景勝	豊臣
1600.0510	慶長5年	5月10日	5月10日、伊達政宗が家康より、伊達・信夫(福島県)の町人百姓らと不意に上杉領へ乱入するよう密命を受ける。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0601	慶長5年	6月1日	6月1日、神指城が大体成る。本丸は東西100歩、南北170歩、壘の幅広さ6丈、高さ3丈5尺、東、西、北に門を開きも四方に石壘、池を回し、広さ23歩。二ノ丸は東西260歩、南北290歩、壘の広さ9丈、高さ2丈5尺、四方に門を開き、皆池を回し、広さ20歩なり。3月18日から始め、大励役は5月10日より今日までの20日、大体成る。	旧事雑考	景勝	豊臣
1600.06	慶長5年	6月初	6月初、神指城が成る。家康公の景勝征伐のため、四方に防守を配る。白川小峰城に百百川縫殿介、平林内蔵介に500騎を添え置く。横川駅(日光市)には小国但馬300騎を添え置き、路を塞ぎ溪水を湛え、往来を絶する。その上の三依の鶴淵旧跡に150騎、糸沢に200騎、山王峠の東に物見を置く。福島城に本莊出羽守と大崎義隆、車丹波、金子美濃、大塔小太郎、黒谷太郎左衛門、鬼生田主水を置く。津川城には小国但馬200騎を置く。	異本長帳	景勝	豊臣
1600.0602	慶長5年	6月2日	6月2日、家康、関東諸将に軍備を整わせ会津出征を告ぐ。	会津陣物語	景勝	豊臣
1600.0606	慶長5年	6月6日	6月6日、家康、大坂城で会津攻めの進路と担当を定める。	会津陣物語	景勝	豊臣
1600.0610	慶長5年	6月10日	6月10日景勝、防備のため白河、横川(栃木県)、福島に家臣を派遣し、城の修理などを指示する。	旧事雑考	景勝	豊臣
1600.0610	慶長5年	6月10日	6月10日、景勝、神指城の工事を中止し、安田、甘糟、岩井、大石、本庄へ臨戦態勢を命じる。	上杉文書	景勝	豊臣
1600.06	慶長5年	6月	6月、津川口と八十里口代官として宇津江、満願寺、菅野、柿崎が討入りし、越後の堀と溝口氏に敗れる。伊達口(梁川城)には須田氏が2万にて向かう。最上口へは直江山城守・大関常陸・安田上総が6万にて向かう。	塔寺長帳	景勝	豊臣

1600.06	慶長5年		両側の山を切り崩し、箕沢(栃木県那須町箕沢)街道の往来を塞ぎ、西二里(8km)へ境明神白坂の道を造り、関東勢を白川(河)表の革(皮)籠原へ引き込むため、近辺、在々、里々を焼払い、山林竹木切り、道を造り、地をならし、三里四方を畳の上のごとくにして待ち掛けた。また、谷津田川という深沼あり、その南東に革(皮)籠原あり、それより西一里に西原という原野があり、直江山城が命じて中畑の浪人蕪(冠)木という者、酒樽桶を2千ほどあつめ地と等しく西の原に並べ埋め(地に埋め底を抜いて横に並べ)、黒川より大隈川(阿武隈川の旧名)の其上(上流)で仕切り流した。また、景勝はただ1騎で、歩士(足軽)2・3人にて会津を発し、背炙り山(会津若松市)から、古(小)田川(白河市小田川)、踏瀬(泉崎村踏瀬)、関山(白河市関山)、小井堀、老ノ髪(旧白河の関、白河市旗宿)に出て、そこから白坂の境明神まで樵夫(きこり)の案内で、人も知らない山道を通り明神まで乗り回した。そこより、鷹(高)助(西郷村高助)、根子(西郷村名子)、朴坂(鳳坂峠)を経て会津へ帰る。	白河風土記	景勝	豊臣
1600.0616	慶長5年	6月16日	6月16日、家康、伏見城を発し、江戸へ向う。		景勝	豊臣
1600.0620	慶長5年	6月20日	6月20日。石田三成、直江兼続に家康の使僧豊光寺承克に対し、景勝に別心はないことを伝える。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0621	慶長5年	6月21日	6月21日夜半、白石城へ仙台領より思いもよらぬ所から高野鞆負ら大勢押し寄せ梁川北の大枝村に火を掛け男女ともに切り払い、百姓町人相手かまわず手負い多く、散々となる。大枝の郷士佐藤新右衛門一族の豊後が高野目掛けて戦うが深手を負う。梁川五十沢で梁川城の須田氏が阿武隈川を渡り加勢し、伊達勢を打ち破り、以後佐藤氏は柳川城に入る。	信達両郡領主変遷記	景勝	豊臣
1600.0622	慶長5年	6月22日	6月22日、白石城代、甘糟備後が若松での軍議のため城が留守となる。25日、白石城を政宗が攻め落す。	伊達治家記録	景勝	豊臣
1600.0622	慶長5年	6月22日	6月22日、秀忠が、大田原城普請奉行として譜代の石川八左衛門重次と内藤金左衛門忠清を派遣し、石川八左衛門重次を介して、大田原晴清に「人留」を要請。同月、大田原城普請のため、加勢として皆川広照(13000石)、同隆庸と家康譜代の服部半蔵正就(5000石)が派遣される。黒羽城には、榊原康政の家臣、伊奈主水が奉行として派遣された。6月22日、大田原晴清は、秀忠より奥羽方面への通行禁止を要請される。	譜牒余録	景勝	豊臣
1600.0625	慶長5年	6月25日	上杉家中で足軽25人を預かる。相馬境の河俣に居た時、6月25日、伊達が太石(伊達市霊山町大石)で蜂起した時、政宗勢が掛田の城(伊達市霊山町掛田)を攻めるとされ、加勢に掛田城へ馬で入る時、拙者と馬が手負いを受ける。	大津久親戦功覚	景勝	豊臣
1600.0625	慶長5年	6月25日	6月25日、黒羽城の大関資増は、大田原(栃木県)の温泉神社に、伊奈主水の神力によって願いが成就するよう祈願する。	多治比系伝	景勝	豊臣
1600.0626	慶長6年	6月25日	6月25日、大石(福島県伊達市大石)で郷民が蜂起し懸田城に伊達勢が入る。26日、梁川城(福島県伊達市梁川)主の須田長義は築地修理以下千人の兵を出し、福島からは上泉主水、木村造酒丞らが馳せ参じ即日平定。	福島市史	景勝	豊臣
1600.06	慶長5年	6月	6月、黒羽城(栃木県大田原市黒羽)が改修され、中門、北城、東側門、北坂門が建立される。本丸に岡部長盛、北城に服部保英(服部正就の従兄弟)、三ノ丸に城主の大関資増、千本義貞が配置される。	大関家文書	景勝	豊臣
1600.07	慶長5年	7月	秋、横川(栃木県日光市、兼続の本陣)の防塁と道谷坂の陣(福島県須賀川市長沼、景勝の本陣)を築く。	要害録	景勝	豊臣
1600.07	慶長5年	7月	7月、佐竹義宣、棚倉(福島県東白川郡)の赤館城に陣(佐竹氏陣)を築き、表向き家康に協力し、景勝を攻めるふりをするが、景勝と通じる。9月半ばまで、佐竹義重(義広)の軍勢を置いたが、動かなかった。	水戸市史	景勝	豊臣
1600.0701	慶長5年	7月1日	7月朔日、兼続、佐藤勘介の返書を書き、越後の一致機のため、足軽やあなほりなどの派遣を、水原常陸介へ申し渡す。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0702	慶長5年	7月2日	7月2日、家康江戸城に入る。	会津鑑	景勝	豊臣
1600.0703	慶長5年	7月3日	7月3日、庄内の亀ヶ崎城の志田修理亮(直江兼続家臣)へ鉛玉二千発が送られる。	亀ヶ崎城発掘資料	景勝	豊臣
1600.0706	慶長5年	7月6日	7月6日、伊達郡(福島県)桜田の古館(川股城)で、近里村の百姓らが政宗に協力し一揆を起し、伊達勢を小嶋豊後守が打ち破り、兼続が銀子2枚を与える。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0707	慶長5年	7月7日	7月7日、家康は、戸沢氏に書状を送り、最上義光を総大将にして、戸沢氏など出羽衆が会津出陣の計画をし、その日を21日と定め、軍令を公布する。	戸沢文書	景勝	豊臣
1600.0709	慶長5年	7月9日	7月9日、景勝は、白河城の芋川越後守、縫殿頭、西方次郎右衛門、平林蔵人へ急ぎ城塁の修築と、村越を派遣し手を抜かないよう軍備を指示。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0710	慶長5年	7月10日	7月10日、兼続は、白河城の芋川らに白川城(白河城)修築を急がせ、在番衆から誓詞を取ることを伝える。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0712	慶長5年	7月12日	7月12日、政宗は相馬を経由して仙台の北目城(仙台市)に入る。	治家記録	景勝	豊臣
1600.0712	慶長5年	7月12日	7月12日、兼続は相馬の相馬義胤に味方になるよう書を送る。	大津文書	景勝	豊臣
1600.0713	慶長5年	7月13日	7月12日、毛利輝元、大坂城の西の丸に入るが、家臣の安国寺と吉川の対立で関ヶ原へ向かうことが出来ず。		景勝	豊臣
1600.0714	慶長5年	7月14日	7月14日、三成は、豊臣秀頼の命を受けて景勝に越後旧領を与え、兼続に越後で上杉旧家臣を扇動し兵を起こさせる。	続武者物語	景勝	豊臣

1600.0715	慶長5年	7月15日	7月13日、徳川軍の先鋒として、館林10万石の譜代の榊原康政が出陣し、15日には大田原城（栃木県大田原市）に着陣し、那須衆が拝謁する。	大関家文書	景勝	豊臣
1600.0717	慶長5年	7月17日	7月17日、豊臣の奉行長束正家、増田長盛、前田玄以は家康の罪状十三条を挙げ、家康を討つよう激をとばす。		景勝	豊臣
1600.0719	慶長5年	7月19日	7月19日、徳川秀忠、江戸城を発し、会津進攻を開始する。22日には、宇都宮城に着陣する。	大関家文書	景勝	豊臣
1600.0719	慶長5年	7月19日	7月19日、白川(白河)在番衆に対し、芋川越前守、平林蔵人、西方次郎右衛門の指図に従うことなどを記した5箇条の条文が出される。	歴代古案	景勝	豊臣
1600.0719	慶長5年	7月19日	7月19日、景勝は、白川(白河)の在番衆に対し、芋川越前守、平林蔵人、西方次郎右衛門の指図に従うこと、活躍した場合の褒美の約束などを記した5箇条の条文が出される。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0719	慶長5年	7月19日	7月19日、白河の在番衆に、もと白河城主の結城与七が参陣し歓迎される。	秋田藩文書	景勝	豊臣
1600.0721	慶長5年	7月21日	7月21日、家康、江戸城を発し、会津進攻を開始する。24日には小山陣に着陣する。	治家記録	景勝	豊臣
1600.0721	慶長5年	7月21日	7月21日、政宗、白石（宮城県白石市）に向けて出陣する。	治家記録	景勝	豊臣
1600.0722	慶長5年	7月22日	7月22日、兼統は、大國実頼へ、野州境の砦、鶴ヶ淵の普請を浪人鹿沼右衛門（与板衆・鹿沼右衛門組）に申し渡す。松本方と佐藤甚助に越後口の一探の扇動を申し渡すとともに、桧枝岐が手薄なので警護を固めるため松本を回す。湯本、たか花は、この方より安上（安田と甘備（甘糟備後）を派遣する。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0722	慶長5年	7月22日	7月22日、兼統は、大國実頼に書状を送る。鶴淵と物見を丈夫に普請するよう鹿沼右衛門に申付ける。松本へ越後口で一揆を催すよう派遣し、佐藤甚介（只見城将）に副将として樋枝俣（桧枝岐）へ差置き堅く守らせる。湯本、高原へは、ここより（兼統いどころ・若松城か）、栗林肥前を派遣し入念にする。御用のときは、安田上総と甘糟備後の二人へ申すこと。関原軍記大成や会津陣物語、東国太平記では、景勝が長沼在陣とし、兼統は高原から塩原に出るとあるが若松の城にいるようだ。	上杉家記	景勝	豊臣
1600.0722	慶長5年	7月22日	7月22日、那須衆の大関資増、大田原晴清、伊王野資信は石橋（栃木県）で、宇都宮を目指していた徳川秀忠に拝謁。同じく那須衆の那須資景、蘆野政泰、福原資保は宇都宮付近の白沢（宇都宮市）で拝謁した。	大関家文書	景勝	豊臣
1600.0724	慶長5年	7月24日	7月24日、大関資増、大田原晴清、伊王野資信は秀忠の指示により、小山に着陣した家康を訪ね、拝謁。家康から上杉軍に対し防備を命じられ、刀、金子を与えられ、それぞれの城に帰る。宇都宮城が家康の「旅館」、黒羽城が秀忠の「陣城」に想定していた。	多治比系伝	景勝	豊臣
1600.0724	慶長5年	7月24日	7月22日、白石城の甘糟備後は、7月6日、伊達勢の桜田元親が蜂起した川股城の軍議に向かい留守で、元親は伊達郡の小島、秋山、大波、飯野を焼払い、福島市立子山の館まで進攻し、川股城へ立て籠もっていた。24日、白石城を登坂氏が守備していたところを、政宗が攻め落す。	治家記録	景勝	豊臣
1600.0724	慶長5年	7月24日	7月24日、家康小山に到着する。伏見から使者が来て、石三成と大谷吉継が伏見城を挙げたことから、評定となる。秀忠（家康三男）と結城秀康（二男）は、宇都宮城本丸に配置される。同年夏、大田原城は、徳川殿（家康）の御陣を移すことを定められていた。	藩翰譜	景勝	豊臣
1600.0724	慶長5年	7月24日	7月24日、喜連川頼氏は、父の那須資晴あてに、会津攻めでの参会を期す。	那須文書	景勝	豊臣
1600.0724	慶長5年	7月24日	7月24日、家康は、水戸城へ嶋田治兵衛利政を送り、佐竹義宣が、上洛しなかったことや江戸の軍議に参加しなかったことを問いたす。城代家老の和田為昭は、義宣は病気で太田城に居て動けないことを説明。嶋田は、直り次第馳せ参るよう命じている。また、母と妻子を人質として上洛させているが、さらに弟の葦名盛重（会津の領主であったが天正17年、伊達政宗に磐梯山麓の摺上原で敗北、会津を去る）と石城貞隆（石城城主）を人質に出すよう要求されるが、拒否する。	水戸市史	景勝	豊臣
1600.0724	慶長5年	7月24日	7月24日景勝、川俣城（福島県伊達郡川俣町）を占拠した桜田氏を攻め、撃退する。	治家記録	景勝	豊臣
1600.0824	慶長5年	7月24日	7月24日、伊達の相馬境の河俣と申す所にて、政宗衆に桜田玄蕃と掛け合いの時、7月24日1日で首二つ高名が仕り、則、城を乗りつくし、上泉主水より一番乗りを仕え、褒美として銀3枚を拝領する。	辻吉助高名の覚	景勝	豊臣
1600.07	慶長5年	7月	伊藤仁右衛門、直江山城へ奉公時分、川俣の城攻めでは、ほうばい(同僚)8人と一番に城へ乗り移り、首二つ。我ら40人余り組内で一番首を上げる。山城より金2枚下される。	伊藤仁右衛門尉覚書	景勝	豊臣
1600.0725	慶長5年	7月25日	7月25日、家康は、水戸城へ送った嶋田治兵衛利政の報告を受け、伊勢松坂城主の古田織部正重勝を水戸城へ送り、速やかに出馬しなければ、上杉討伐を後にし、先に義宣を攻めると告げた。水戸城代の和田為昭は、驚き、早馬を義宣と棚倉の梅津と戸村へ報じ、義宣は、水戸城へ戻った。義宣は、赤館城の須田盛秀に慎重な行動を指示する。	水戸市史	景勝	豊臣
1600.0725	慶長5年	7月25日	7月25日、小山評定により、家康軍が関西へ引き返す。		景勝	豊臣
1600.0725	慶長5年	7月25日	7月25日、政宗、家康に白石城攻略を報告する。	政宗文書	景勝	豊臣

1600.0725	慶長5年	7月25日	7月25日と26日、伊達郡小手村（福島県川俣町）の大館古城（川俣城）を伊達の桜田大隈らが立て籠もり、青木隼人、上泉主水秀胤が攻める。首を送るよう注文する。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.07	慶長5年	7月	7月、奥州の内、川俣の城、一の城戸にて手負い。この度、永井右近直勝お抱え、山本大善、酒井宮内忠勝の家来、辻加賀吉助に仕える。	小野寺刑部 戦覚	景勝	豊臣
1600.0726	慶長5年	7月26日	7月26日、榊原康政が大田原城（栃木県大田原市）を巡視、27日には黒羽城（栃木県大田原市黒羽）を巡視し、江戸城へ人質を差し出すよう命じる。	那須記	景勝	豊臣
1600.0727	慶長5年	7月27日	7月27日、兼統は、木村、上泉、榊並、青柳へ書を送り、川俣の地で動きあり、城を攻め落した桜田を討取ったことを誉め、小手内（福島県伊達郡）の大館（川俣城）へ、青柳と主水組より人数を派遣し、攻め落とし、撫で斬りにしたこと心良し。白川よりの使者で、家康が岩槻より引退したこと。白石に居る政宗に注意すること。川俣の石栗将監へ堅固に守るよう指示する。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.07	慶長5年	7月下旬	7月下旬、佐竹義宣水戸城を発し、渋井内膳5千は棚倉の寺山（福島県東白川郡棚倉町）へ、梅津半右衛門が矢祭の大洪（福島県東白川郡矢祭町）に1万、義宣本隊は、棚倉の赤館城と陣に2万3千、その他も合わせ、合計4万の大軍を仙道口へ移動させ、義宣は8月下旬まで、葦名盛重は9月中旬まで陣を敷いていた。この陣へ、直江兼統が訪れ、再度の協力を要請したが、義宣は作戦を断り、景勝はその報告に失意したという。	水戸市史	景勝	豊臣
1600.0728	慶長5年	7月28日	7月28日、家康は、葦名（佐竹）盛重（義広）が会津へ向かうとの報に対し、返書を与える。	葦名家文書	景勝	豊臣
1600.0728	慶長5年	7月28日	7月28日、景勝は、大國実頼よりへ、塩谷伯耆守、栗林肥前守、鹿沼右衛門、に対し、普請の苦勞をねぎらい、国境で何かあればすぐ知らせるよう指示。	秋田藩文書		
1600.0728	慶長5年	7月28日	7月28日、兼統は清水所より、山田喜右衛門へ、佐藤甚介の越後口一、ニヶ所へ、早々に派遣を命じる。	秋田藩文書	景勝	豊臣
1600.0729	慶長5年	7月29日	7月29日、浅野長政の子、幸長が小山評定により「会津表御動延引」となったことを受け大関資増に書状を出し、宇都宮、結城、小山へ回る。	大関家文書	景勝	豊臣
1600.0729	慶長5年	7月29日	7月29日、徳川家康は、最上義光に会津攻めの中止と西上への方針を伝える。	徳川家康文書 の研究	景勝	豊臣
1600.0729	慶長5年	7月29日	7月29日、石田三成、三和山から伏見に入る。8月1日、伏見城落城、鳥居元忠は討死。		景勝	豊臣
1600.0725	慶長5年	7月30日	7月の晦日、25日・26日、伊達郡小手村内（福島市）の大館古城で、伊達勢と戦った上泉主水は、討ち取った首106の首注文を作成。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0730	慶長5年	7月30日	7月30日、黒羽城の加勢のため、下総山崎城主の岡部長盛が派遣され、合わせて証人（人質）を江戸へ出すよう家康が命じたことを家康の「大御番御馬廻」の久代景備が記録する。	大関家文書	景勝	豊臣
1600.07	慶長5年	7月	7月、黒羽城本丸に岡部長盛（下総国山崎12000石）、服部保英（下総国内300石、服部正就の従兄弟）が北城（二ノ丸）に加勢配置。城主大関資増（13000石）は那須衆の千本義貞とともに三之丸に入る。	朝野旧聞	景勝	豊臣
1600.07	慶長5年	7月末	7月末、大田原城へ那須資景、福原資保、伊王野資友、岡本義保、大田原増清らが守備に加わり、家康から長筒の鉄砲十丁が預けられる。	譜牒余録	景勝	豊臣
1600.0801	慶長5年	8月1日	8月1日、家康の命により戸沢氏（秋田県大仙市角館）が兼統の動静を報告する。	秋田藩文書	景勝	豊臣
1600.0802	慶長5年	8月2日	8月1日、家康、豊臣方の挙兵により小山から江戸に帰る。	会津陣物語	景勝	豊臣
1600.0802	慶長5年	8月2日	8月2日、兼統は、松本伊豆守と佐藤甚介を越後の上田荘へ派遣する。	秋田藩文書	景勝	豊臣
1600.08	慶長5年	8月	8月上旬、黒羽城に岡部内膳長盛らの入城加勢が済み。徳川から鉄砲15挺が与えられる。	譜牒余録	景勝	豊臣
1600.08	慶長5年	8月	8月か。越後では、会津より川津川、八十里口へ代官の宇津江、満願寺、菅野、柿崎が打って入り、堀久太郎、水口伯耆氏が働き、会津衆を打ち返す。	塔寺長帳	景勝	豊臣
1600.0803	慶長5年	8月3日	8月3日、兼統、若松城下の自宅普請は無用と山田喜右衛門に指示する。（約3300坪）8月初めには、阿賀北を除く越後で一揆が発生。	秋田藩文書	景勝	豊臣
1600.0804	慶長5年	8月4日	8月4日、兼統は前日到来した奉行中の大谷吉継、増田長盛、石田三成の11カ条の連状の写しを境目を守る榊並三郎衛、青柳隼人、木村造酒丞、車丹波守、小田切安芸守に遣わす。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0804	慶長5年	8月4日	8月4日、兼統は岩井昌能に対し、徳川家康が小山に在陣していること、豊臣の奉行中の連状の写しを遣わす。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0805	慶長5年	8月5日	8月5日、兼統は、長沼の岩井備州信能へ指示。景勝は、鳴津らに油断なきよう指示し、今月中に（若松へ）帰る。白川（河）表より日々報告があり、内府（家康）がまだ小山陣にいたので油断ないように。梁川へは加勢を送くる。佐竹より昨日使者があり、義宣は、このたび、内府（家康）からの同盟を問われ、不通りであり、手切りを申し渡したので、証人を送るので加勢を御願いたい。上方の御奉行中よりの書状写しを送る。	歴代古案 直江兼統書 状写	景勝	豊臣
1600.0806	慶長5年	8月6日	8月6日、長沼（福島県須賀川市長沼）に居た直江兼統は、会津の清野助二郎に、昨日佐竹より使者がきて、今会津へ帰るかもしれないとし、佐和山の三成から使者が来ていた。三成から書状は、兼統が見て返事を出すという。	兼統書状	景勝	豊臣
1600.0806	慶長5年	8月6日	8月6日、宇都宮に在陣中の徳川家臣の本多正信、大久保忠隣が、那須資景に書状を出し、江戸の母や妻などの人質（8月3日に出す。大関氏は8月1日に出す）、宿や扶持について配慮するよう書状を送ったと記す。	譜牒余録	景勝	豊臣



1600.0807	慶長5年	8月7日	8月7日、家康は会津から越後上田庄（南魚沼市）へ攻め込んだ上杉勢500余人を打ち捕えた坂戸城主堀直寄の手柄を賞賛する。	歴代古案	景勝	豊臣
1600.0808	慶長5年	8月8日	8月8日、徳川秀忠、堀直寄の手柄を賞賛する。	歴代古案	景勝	豊臣
1600.0808	慶長5年	8月8日	8月8日、兼統は、安子嶋（郡山市熱海町）から米沢へ伝馬令。横川から馬二匹を整え中山、猪苗代、高柳、大塩、松原、綱木、関沢、米沢までの伝馬、宿送りを命じる。	今井文書	景勝	豊臣
1600.0810	慶長5年	8月10日	8月10日、兼統、家康追撃を景勝に願うが許されず城に帰る。	上杉年譜	景勝	豊臣
1600.0811	慶長5年	8月11日	8月11日、政宗、白石城の普請が進まないで警護を指示する。14日には北目城（仙台市）に戻る。	治家記録	景勝	豊臣
1600.0811	慶長5年	8月11日	8月11日、景勝、伊達、信夫両郡の陣へ馬廻の藤巻与三郎を派遣する。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0812	慶長5年	8月12日	8月12日、兼統、白川表の岩井信能に、宇都宮より変化の連絡が入れば白川へ注進すると返事。白川表は無事。白石は打ち出ている。政宗が上方の事を聞いている。最上口は、仙北衆が最上から引き上げ、最上衆が混乱している。越後は、無く、4・5日前に堀兵衛を派遣した。一両日中に佐竹より使者が若松へ来る。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0812	慶長5年	8月12日	8月12日、兼統、岩井信能に、白河表は無事なのはよい。在陣衆と相談し普請等をするように。宮中(宇都宮)より変化の連絡が入れば報告するように。白石表は、百姓も加わり、一昨々日、郡(桑折)まで南下したが、引き返した。上方の様子、政宗も聞いているであろう。最上口は、南部と仙北衆が、家康の上げたことを聞き、引き払い、最上衆は混乱。由利は庄内を仕切り、小野寺も同様。越後は、村上と溝口別衆ない。四・五日以前に、堀氏を派遣する。一両日中に佐竹より使者が来るので、その後若松へ行く。	直江兼統書状	景勝	豊臣
1600.0813	慶長5年	8月13日	8月13日、兼統は、福島周辺へ政宗の白石攻略後、福島進攻との情報を得て、横大、車丹、金美、築修、大小左、須大へ後詰を求める。	直江兼統書状	景勝	豊臣
1600.0815	慶長5年	8月15日	8月15日、(7月の誤り)最上7000騎、南部3000騎、本堂2500余騎、秋田5500余騎、戸沢2000余騎、六郷1000騎、赤尾1000騎、滝沢1000騎、仁賀保1000騎、岩尾500騎、内越500騎、総勢25000余騎、国元を発し会津へ赴く。	異本長帳	景勝	豊臣
1600.0818	慶長5年	8月18日	8月18日、最上義光は、兼統に書状を送り、証人を差出し、上杉に敵対しないことを約束する。	御年譜	景勝	豊臣
1600.0819	慶長5年	8月19日	8月19日、兼統、若松城へ帰る。	秋田藩文書	景勝	豊臣
1600.0820	慶長5年	8月20日	石田三成、8月11日、大垣城へ入る。8月20日頃までには、近畿をほぼ平定する。		景勝	豊臣
1600.0822	慶長5年	8月22日	8月22日、家康が政宗に「百万石のお墨付」を与える。	政宗文書	景勝	豊臣
1600.0823	慶長5年	8月23日	8月23日、福島正則ら東軍が、大垣城を攻略し、24日赤坂に陣を敷く。		景勝	豊臣
1600.0823	慶長5年	8月23日	8月23日、景勝、芋川越前守、西方次郎右衛門、平林蔵人に、白川（白河）小峰城普請のために横目として石川、小田切の2名を派遣すると伝える。	歴代古案	景勝	豊臣
1600.0824	慶長5年	8月24日	徳川秀忠、8月24日に宇都宮を発し、中山道へ向かう。		景勝	豊臣
1600.0824	慶長5年	8月24日	8月24日、大津仁右衛門久親は、上杉家臣の辻吉介に仕え、白石の小須郷(白石市五賀)250石をもらう。	大津久親戦功覚	景勝	豊臣
1600.0825	慶長5年	8月25日	8月25日、景勝、政宗に備え、本庄氏を福島に移す。	本庄文書	景勝	豊臣
1600.0825	慶長5年	8月25日	8月25日、家康から大田原晴清へ書状が届き、上方への出馬は引き延しとなり、上杉軍が南下の時は注進するよう命じる。その時には、家康自らが出馬し、これを討ち果たす所存である。	譜牒余録	景勝	豊臣
1600.0829	慶長5年	8月29日	8月29日、兼統、28日には二本松から29日に、若松へ帰る。	秋田藩文書	景勝	豊臣
1600.0901	慶長5年	9月1日	9月1日、家康江戸を発し、西へ向い、14日には、関ヶ原の赤坂陣に着く。		景勝	豊臣
1600.0903	慶長5年	9月3日	9月3日、政宗、景勝方に組することを願うが兼統それを保留する。	本庄文書	景勝	豊臣
1600.0903	慶長5年	9月3日	9月3日、上杉家は三十三カ条からなる軍法を制定。	上杉家文書	景勝	豊臣
1600	慶長5年		黒羽城には、岡部内善正長盛と服部半蔵正成、伊賀と甲賀の同心200人を遣わす。白河筋の情報収集を那須の者が度々派遣されるが、なかなか戻らなかったのが伊賀の者3人が派遣された。彼らは白河城の大手で磔にされていた。白河城内の様子や規模、兵や武器の数について詳細に報告する。	徳川諸家系譜	景勝	豊臣
1600.0904	慶長5年	9月4日	9月4日、兼統は3日に米沢入りし、最上進攻に動こうとするが、最上から申し出があったので、引き延ばした。2、3日後にわかるだろう。政宗も同然で、戦う人数には不足無い(約2万人)とある。	直江兼統書状	景勝	豊臣
1600.0905	慶長5年	9月5日	9月5日、黒羽城主の大関資増へ、伊達政宗家臣の鈴木重信へ書を送り、重信は政宗に大関からの書状を見せ、政宗は家康の命令があれば会津へ進攻する用意があることを伝え、上方の情勢伝達を要請する。	大関家文書	景勝	豊臣
1600.0907	慶長5年	9月7日	9月7日、景勝、鶴淵の普請を命じる。	井上文書	景勝	豊臣
1600.0909	慶長5年	9月9日	9月9日、兼統、米沢を發し畑谷城に向い11日に攻める。	旧事雜考	景勝	豊臣
1600.0911	慶長5年	9月11日	9月11日、兼統、米沢を發し、最上義光を攻める。江口の居城畑谷城を攻め、13日に落城。討死におよそ350の首を塩詰箱に入れ若松城下の湯川の川原、今の花畑に晒す。	異本長帳	景勝	豊臣
1600.0912	慶長5年	9月12日	9月12日、直江兼統は約2万で最上に進攻し、畑谷城を包圍、最上の江口光清以下500人は討死。	最上義光物語	景勝	豊臣

1600.0913	慶長5年	9月13日	9月13日、景勝、最上義光の密約違反に激怒し、兼続に攻めることを指示。畑谷城を攻略し首350余をあげ若松へ送り湯川河原にさらし、次いで長谷堂城を囲む。	上杉家記	景勝	豊臣
1600.0913	慶長5年	9月13日	9月13日、家康、岐阜城に入る。		景勝	豊臣
1600.0913	慶長5年	9月13日	大田原晴清より、家康へ「相変わらず無きのよし」の書状が届き、れ9月13日、家康が岐阜に着陣したこと報じる。	譜牒余録	景勝	豊臣
1600.0914	慶長5年	9月14日	9月14日と15日、白河の関山周辺(白河市関山)で上杉軍の進攻があり、徳川勢の伊王野資信と合戦となり、伊王野氏は白河の関山を攻め、占拠。伊王野勢は39人、上杉勢は苦戦しながら伊王野氏を攻め173人亡くなり、関山を取り戻す。	継志集	景勝	豊臣
1600.0914	慶長5年	9月15日	9月15日、上杉軍が伊王野口(栃木県那須郡太田和那須町)へ進出すると情報があり、伊王野からの注進により、黒羽、大田原両城では、後詰めの手配をするが、戦闘は拡大せず、終息する。	多治比系伝	景勝	豊臣
1600.0915	慶長5年	9月15日	9月15日、二本松城の秋山昌綱に、13日に最上の畑屋城を乗っ取り撫で斬りにし、城主の江口父子など500余を討ち捕らえ、14日には、最上の居城へ向かい、山形周辺の城2・3ヶ所を降参させたと伝える。	大河原文書	景勝	豊臣
1600.0915	慶長5年	9月15日	9月15日、畑谷の城にて一番乗りを仕ったのは辻吉助、直江山城惣軍の一番首を突見する。	辻吉助高名の覚	景勝	豊臣
1600.0915	慶長5年	9月15日	9月15日、最上義光、義康を北目城に送り、援軍を願う。翌16日、政宗は、叔父の伊達政景に騎馬500と鉄砲1,700を付けて派遣する。	治家記録	景勝	豊臣
1600.0915	慶長5年	9月15日	9月15日、那須勢の伊王野軍が白河の関山(白河市)を攻め、上杉軍と合戦となり39人戦死する。上杉軍を撃退する。	継志集	景勝	豊臣
1600.0915	慶長5年	9月15日	関ヶ原の戦い。家康方が勝利する。		景勝	豊臣
1600.0916	慶長5年	9月16日	9月16日、長谷堂城の志村光安を直江軍1万8千人が包囲し、兼続は普沢山に陣を置く。夜、志村は直江勢の春日元忠へ2百人で夜襲を仕掛け、直江勢は大混乱となり、直江勢250人の首を討取られる。別行動の横田旨俊、本村盛親、篠井泰信らは中山口から上山城を攻めたが破れた。	最上義光物語	景勝	豊臣
1600.0917	慶長5年	9月17日	9月17日、伊達口へ須田が2万で進み、最上口は直江山城守・大崎常陸・安田上総が6万で最上城近くまで進む。10月2日引く。	塔寺長帳	景勝	豊臣
1600.0917	慶長5年	9月17日	9月17日、兼続は、春日元忠に命じ、上山城、長谷堂城を攻めたが、長谷堂城では深田に阻まれ、城内からの鉄砲で城を落とすことは出来なかった。	最上義光物語	景勝	豊臣
1600.0919	慶長5年	9月19日	9月19日、美濃国赤坂に到着した徳川秀忠と浅野長政のもとへ、大関資増からの使いが来る。	多治比系伝	景勝	豊臣
1600.0921	慶長5年	9月21日	9月21日、安田上総より、兼続へ書状が届き、上方で散々に罷り成り(関ヶ原敗戦の知らせ)とある。関東口は、安心。大国但馬は米沢へ向わせる。政宗の白石表か米沢への動きはいつ頃か。政宗が出てきた時は、両国相済むようしたい。	秋田藩文書	景勝	豊臣
1600.0922	慶長5年	9月22日	9月22日、長谷堂の城は、山形城から近く、援軍があつて膠着し、陣構を堅固にするよう申渡している。政宗も最上も覚悟の様子で、景勝出馬延期し、南山の手明けの者と弟大関実頼を派遣して欲しい。福島においては、梁川へも使いを出しているが、普請等油断無くするように、政宗が動く時は、景勝が出馬するよう側近の助二郎へ依頼する。	直江兼続書状写	景勝	豊臣
1600.0924	慶長5年	9月24日	9月24日、景勝、兼続の出陣により手薄となった米沢へ安田能元に命じ、森山城の安田与親、竹股利綱、黒川豊前、島津昔忠らを米沢へ派遣する。	上杉家記	景勝	豊臣
1600.0925	慶長5年	9月25日	9月25日、最上義光、長谷堂城に向う。	旧事雑考	景勝	豊臣
1600.0925	慶長5年	9月25日	9月25日、最上義光は長谷堂城へ1万7千人で向かう。9月30日は、家康より関ヶ原の知らせが届く。	奥羽永慶軍記	景勝	豊臣
1600.0925	慶長5年	9月25日	9月25日、景勝は、梁川城在陣の樋口長兼と山岸尚家に書を送り、伊達政宗境の仙道口に用心するよう指示する。	覚上公御書	景勝	豊臣
1600.0925	慶長5年	9月25日	9月25日、景勝は、兼続の父、樋口兼豊に対し、政宗の攻撃があるが心配しないよう報告する。	直江兼続書状	景勝	豊臣
1600.0926	慶長5年	9月26日	9月26日、安田能元が、尻高左京之助を従え若松から最上に向かう。	上杉家記	景勝	豊臣
1600.0927	慶長5年	9月27日	9月27日。家康、豊臣秀頼に拝謁し、毛利輝元を退却させ、大坂城の西の丸に入り居所とする。	戦国全史	景勝	家康
1900.0929	慶長5年	9月29日	9月29日、申刻(午後4時)に最上勢の奇襲を受け、兼続勢は混乱する。何とか撃退したことを、若松の景勝側近の清野助二郎へ報告。	直江兼続書状写	景勝	家康
1600.0929	慶長5年	9月29日	9月29日、兼続、各隊に退却を指示する。	旧事雑考	景勝	家康
1600.0929	慶長5年	9月29日	9月29日、兼続、梁川や福島に諸隊へ上方は丈夫だと報告する。	覚上公御書	景勝	家康
1600.0930	慶長5年	9月30日	9月30日、政宗に家康から、関ヶ原の戦いの結果が午後十時頃届く。同日、政宗は、石川照光ら家臣に関ヶ原の知らせを出す。	留守文書	景勝	家康
1600.10.01	慶長5年	10月1日	10月1日、兼続、30日の晩、撤退作戦を開始。長谷堂城包囲を解き、3日に荒砥城に退却。4日には、米沢へ引き上げる。	上杉家記	景勝	家康
1600.1001	慶長5年	10月1日	10月1日、最上義光は留守政景に出羽庄内勢が、谷地(山形県河北町)に籠居していることを知らせる。	留守文書	景勝	家康

1600.1002	慶長5年	10月2日	10月2日、直江兼統、6万の兵を引く。	塔寺長帳	景勝	家康
1600.1006	慶長5年	10月6日	10月6日、政宗、小坂峠(福島県伊達郡国見町)から2万人で入り、厚樫山(国見町)に陣取り南下し、摺上川を挟んで、宮代館の上杉勢と対峙するが、上杉勢は福島城へ退却。さらに政宗は、南下して信夫山に寂光院別当慶印ら山伏勢の加勢もあって信夫山の黒沼神社に陣取る。福島城を守る本庄氏が防戦する。横田大学と大崎義隆は政宗に内通し、若松に移された後に国外追放となる。(「松川合戦」と呼ばれる)	治家記録	景勝	家康
1600.10	慶長5年	10月	4月と書かれているが10月の間違い。伊達政宗が大軍で福島へ進攻した際に、岡野左内は400の兵を率い、松川を渡り、伊達の本陣を攻め、政宗とは知らず、切りかかる。	会津陣物語	景勝	家康
1600.1006	慶長5年	10月6日	10月6日、景勝は、政宗が梁川表へ動き、信夫表の岩井備中へ、梁川表の須田とともに伊達政宗の打ち出しを相談し、堅く守ること。直江は6日まで米沢には帰らないで動いている。	覚上公御書	景勝	家康
1600.1007	慶長5年	10月7日	10月7日、兼統は、景勝側近の清野助二郎へ、景勝が福島へ出馬するのを延期はいいが、二本松まで出馬した方が良いと意見する。南山への人数は入らない。二本松から福島経由で米沢までは道が不自由となっているので、二本松から人を派遣もらい話を聞きたい。	直江兼統書状写	景勝	家康
1600.1012	慶長5年	10月12日	10月12日、秀忠より、那須資増、伊王野資信、福原資保から境目は無事と大久保忠隣宛ての報告に対し、「天下平均」と家康が大坂へ移ったことを報じている。	福原家文書	景勝	家康
1600.1013	慶長5年	10月13日	10月13日、最上義光は、岩城氏家臣の竹貫三河守へ、長谷堂城など各地で上杉勢を破ったと報告する	四家合考	景勝	家康
1600.1013	慶長5年	10月13日	10月13日、若松城下の慶林寺市場(会津若松市西栄町)の場所について、雪下四郎左衛門と関近右衛門は、築田孫八郎に指示する。	築田家文書	景勝	家康
1600.1015	慶長5年	10月15日	10月15日、家康は政宗に書を送り、春には上杉の征伐をすることを告げ、24日には政宗が最上を援助したことを褒め、春には、義光に命じ、景勝を討たせることを告げる。	伊達治家記録	景勝	家康
1600.1020	慶長5年	10月20日	10月20日、兼統若松に帰る。	上杉家記	景勝	家康
1600.1023	慶長5年	10月23日	10月23日、大久保忠隣より、大関資増宛てに、10月12日付け、秀忠書状と同じ内容のものが届く。	大関家文書	景勝	家康
1600.1030	慶長5年	10月晦日	10月晦日、久代景備が大関資増に対し、直江兼統が那須へ使者を派遣する動きがあると記す。大関氏宿老の松本惣左衛門が上方から、黒羽に戻る。	大関家文書	景勝	家康
1600.1103	慶長5年	11月3日	11月3日、景勝、家康側近の本多正信らを頼り、本庄氏を上洛させ家康に謝罪する。	上杉家記	景勝	家康
1600.1212	慶長5年	12月12日	12月12日、関ヶ原で西軍が敗北したことから、景勝は本庄繁長を上洛させることにし、家康家臣の本多正信、本多忠勝・榊原康政に取り成しを依頼する書状を送る。	覚上公御書	景勝	家康
1600.1222	慶長5年	12月22日	12月22日、兼統、梁川城番(福島市伊達市の梁川城)の築地修理亮資へ近日中、政宗の出軍があるので、鉄砲、弾薬と木柄30丁、鉄砲10挺、弾薬千発を送る。	覚上公御書	景勝	家康
1600.1223	慶長5年	12月23日	12月23日、景勝は、京伏見の景勝屋敷に居た千坂対馬へ、家康は家臣の本多正信、忠勝、榊原康政かの降伏勧告に基づき、本庄越前守繁長を上洛させることを千坂に伝える。	上杉景勝書状写	景勝	家康
1600.1224	慶長5年	12月24日	12月24日、政宗、仙台に新城の縄張りを開始する。	治家記録	景勝	家康
1600	慶長5年		この年、若松城下に浄土真宗の福泉寺を法善が草創。	新編会津風土記	景勝	家康
1601.0101	慶長6年	1月1日	正月1日、景勝、新年を会津若松で迎える。	上杉家記	景勝	家康
1601.0101	慶長6年	1月1日	1月1日、築地資豊が守る梁川城(福島県伊達市)の桜館で火事が起きる。他の曲輪は無事であった。	歴代古案	景勝	家康
1601.0106	慶長6年	1月6日	1月6日、伊達勢が糠田(福島県伊達市月館町糠田)に入り立て籠もり、梁川の須田長義に属する車丹波の配下、後藤新左衛門は伊達勢を撃退し高名を上げる。	後藤新左衛門尉覚書	景勝	家康
1601.0122	慶長6年	1月22日	1月22日、1月8日に相馬領丸森小手境で敵の動きがあり、四本松郡代の船橋・安江の両氏が防戦。伊達郡梁川城の鎮将、須田大炊介長義、同番の車丹波守高忠が丸森(宮城県丸森町)の小手境まで敵を追い返す。	覚上公御書	景勝	家康
1601.0214	慶長6年	2月14日	2月14日、須田長義は、四本松郡代の安江五郎衛門と船橋名兵衛へ、川俣での敵の動きで敵53人の生捕りを誉める。	覚上公御書	景勝	家康
1601.0217	慶長6年	2月	2月17日、兼統は、石栗将監へに川俣表で悪党を生捕りにしたこと誉める。	覚上公御書	景勝	家康
1601.03	慶長6年	3月	3月、恵日寺(福島県耶麻郡磐梯町)に対して羽黒平山と大平山の伐採を禁止する。	新編風土記	景勝	家康
1601.0307	慶長6年	3月7日	3月7日、上杉領内の寺社に賽銭を造営資金に与える。	市史	景勝	家康
1601.0329	慶長6年	3月29日	3月29日、兼統は、梁川城(福島県伊達市梁川)の築地修理亮へ、伊達政宗が、福島表へ不慮の動きがあるので、福島を堅固にし防戦するよう用心を命じる。	覚上公御書	景勝	家康
1601.03	慶長6年	3月	3月頃、伊達政宗が福島表に出陣する。	歴代古案	景勝	家康

1601.0410	慶長6年	4月10日	4月10日、梁川城の須田大炊介より、飯野の関氏へ、懸田城攻めの功績で200石を加増する。	覚上公御書	景勝	家康
1601.0410	慶長6年	4月10日	4月10日、梁川城の須田大炊介長義より、飯野村の関帯刀(福島市飯野町、登木戸館主)へ、懸田城攻めの功績で200石を加増される。	須田長義書状	景勝	家康
1601.0421	慶長6年	4月21日	4月21日、政宗、今井宗薫に最上義光の出羽制圧の様子を知らせる。	観心寺文書	景勝	家康
1601.0511	慶長6年	5月11日	5月11日、黒羽城(栃木県大田原市黒羽)に居た岡部長盛と大関資増、服部保英は、大嶋源六郎宛に、今度、徳川軍による関山か白川において進攻作戦が近い内にあるかもしれないと知らせる。	大嶋文書	景勝	家康
1601.0513	慶長6年	5月13日	5月13日、伊達の梁川城において、上杉家より佐藤新右衛門が西根村(福島市飯坂町湯野)250石を賜る。	信達両郡領主変遷記	景勝	家康
1601.0528	慶長6年	5月28日	5月28日、耶麻郡の代官満願寺が、熊倉村(福島県喜多方市)に検断の物江土佐を置き、蒲生秀行時代の11月26日に六斎市を許可する。	新編風土記	景勝	家康
1601.0605	慶長6年	6月5日	6月5日、兼統、梁川城(福島県伊達市梁川町)の築地資豊に近々上洛すると伝える。	覚上公御書	景勝	家康
1601.0701	慶長6年	7月1日	7月1日、景勝、会津を出発し、24日、伏見邸に到着。26日大坂へ着く。	三重年表	景勝	家康
1601.0703	慶長6年	7月3日	7月3日、景勝、兼統を従え京都に出発する。	旧事雑考	景勝	家康
1601.0724	慶長6年	7月24日	7月24日、景勝、京都に到着する。	会津鑑	景勝	家康
1601.07	慶長6年	7月	7月、大田原城に居た服部正就(半蔵)が城を去り、黒羽城に鉄砲3丁と玉薬を置いていく。	譜牒余録	景勝	家康
1601.0808	慶長6年	8月8日	8月8日、景勝、家康の子、結城秀康を頼り家康と会う。	上杉家記	景勝	家康
1601.0816	慶長6年	8月16日	8月16日、出羽米沢、福島30万石移封を命じられる。	上杉氏年譜	景勝	家康
1601.0817	慶長6年	8月17日	8月17日、景勝、家康より米沢への領地替えを申し渡される。	上杉家記	景勝	家康
1601.0820	慶長6年	8月20日	8月20日、直江兼統は、安田能元、岩井昌能に米沢へ移るための五箇条の条文を出す。	上杉家文書	景勝	家康
1601.0825	慶長6年	8月25日	8月25日、蒲生秀行に会津60万石を申し渡される。	会津鑑	景勝	家康
1601.0825	慶長6年	8月25日	8月25日、景勝、長井へ移ることを申し渡される。	旧事雑考	景勝	家康
1601.08	慶長6年	8月	8月下旬、岩井、水原、安田は米沢に移住。	上杉年譜	景勝	家康
1601.0926	慶長6年	9月26日	9月26日、蒲生秀行、石田三成に反抗した功績により、宇都宮から会津に戻る。	旧事雑考	秀行	家康
1601.0926	慶長6年	9月26日	9月26日、蒲生秀行会津60万石を賜り、宇都宮を発し27日に還城する。10月1日、秀行の室が若松城に入る。	異本長帳	秀行	家康
1601.1001	慶長6年	10月1日	10月1日、秀行の室が、若松城に入る	旧事雑考	秀行	家康
1601.1003	慶長6年	10月3日	10月3日、景勝、大坂城で豊臣秀頼に太刀と銀子100枚、淀君に銀子50枚を献上する。	上杉年譜	秀行	家康
1601.1015	慶長6年	10月15日	10月15日、景勝、伏見邸を出発する。	御年賦	秀行	家康
1601.1125	慶長6年	11月25日	11月25日、秀行、城下の両替料の規定をする。	築田家文書	秀行	家康
1601.1024	慶長6年	10月24日	10月24日、前田慶次、伏見を出発する。中仙道と奥州道を経由し、11月19日、米沢に着く。	前田慶次道中日記	秀行	家康
1601.1028	慶長6年	10月28日	10月28日、景勝米沢に着く。	三重年表	秀行	家康
1601.1128	慶長6年	11月28日	11月28日、景勝、米沢への移封が済む。翌年の2月までかかった者や、耶麻郡の信濃町のように会津に残った者も多く居た。	上杉家記	秀行	家康
1601.1128	慶長6年	11月28日	11月28日、景勝、米沢城へ着く。	御年賦	秀行	家康
1601.	慶長6年		この年、若松城下の仙桃院菩提寺、俊芳山東昌寺を米沢に移す。	異本長帳	秀行	家康
1601.	慶長6年		この年、曹洞宗の量外が建てた仙桃院の祠堂、俊芳山東昌寺を米沢に移し、その弟子壽尊を留め、加藤氏の時に現在地へ移転。	新編会津風土記	秀行	家康
1601.	慶長6年		この年、林泉寺、法音寺、大乘寺など上杉家臣団の寺院が会津から米沢へ移る。	米沢市史	秀行	家康